

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 吉田 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="radio"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

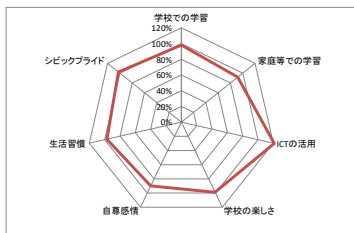
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	相手や目的に応じて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞くことができるように授業の中で取組を行っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」	
	努力が必要な問題	「話すこと・聞くこと」	
算数	全体的な傾向や特徴など	図形の性質を理解したり、空間・平面のイメージをもてるように、目ざから図形に触れる取組を行っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と計算」	
	努力が必要な問題	「図形」「変化と関係」「データの活用」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して90%の児童が肯定的に回答している。
- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
- 「自分には、よいところがある」と回答した割合が低かった。今後は、自分で意思決定ができる場面をさらに多く設定し、自分の判断や行動に自信がもてるよう啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

- 本年度も、児童に問題や情報を読み取る力を付けさせることに重点をおいて授業改善に取り組んでいる。さらに、児童同士の交流活動を多く取り入れる活動も行った。今後も継続して取り組み、問題解決に当たって、学習ではタブレットの活用により、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え判断して行動できる力を伸ばす。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学期末のアンケート（児童・保護者）や生活アンケート等を基に、児童の問題や課題に対して速やかに対応する。また、保護者とも連携を密に取っていく。
- 家庭においても、児童自身がしっかりと意思決定を行い自分のことを自分で行えるよう協力を図っていく。